

第2章 各市の概要

1 西宮市

訪問日：2014年10月29日（水）

訪問先：西宮市役所

対応者：防災計画総務課長 中川 治彦 氏

防災計画総務課係長 杉原 和彦 氏

防災啓発課係長 山本 和男 氏



西宮市役所

(1) 西宮市の概要

西宮市は、1933年に今津町・柴村・大社村、1941年に甲東村、1942年に瓦木村、1951年に鳴尾村・山口村・塩瀬村を合併して、現在の西宮市域を形成した。

西宮市は兵庫県の南東部の阪神地域（神戸と大阪の中間地）に位置し、南部の市街地から大阪・神戸の両都心へ電車利用により15分程度、北部の塩瀬地区からも電車利用により30分程度である。人口487,255人(2014年12月1日時点)、面積は100.18k㎡、市域は東西に約14.2km、南北に約19.2kmで、南は大阪湾に面しており、それに向かって南流する武庫川、夙川の扇状地である武庫平野に市街地が広がっている。この標高10m以下の扇状地北西には、比高10～20mの崖を伴って、階段状の台地である標高約70mまでの段丘が広がっている。

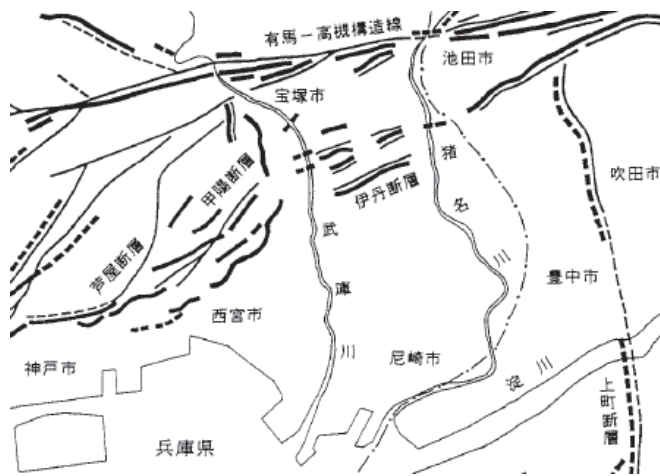
西宮地方は、六甲山地を境として南北で気候が異なり、南部西宮地方はいわゆる



西宮市の位置

瀬戸内気候区に含まれ、六甲山地が北西の冬の季節風を遮るため温暖で晴天に恵まれており、「住みやすいまち西宮」の大きな要因となっている。

農業、漁業、林業、酒造業、製紙業など伝統的生業が地域ごとにあり、特色ある文化財が伝えられている。農村部であった大社・甲東・鳴尾は、郊外住宅地として発展し、近代住宅地を覆うように市域全体の急激な都市化が進行する。



南西から北東方向に走る東六甲の断層帯のうち、甲陽断層が中位段丘の背後にあり、そのさらに北側に芦屋断層がある。甲陽断層と芦屋断層の間には先の段丘礫層などが階層状に見られる。また、花崗岩からなる標高 200m前後の通称北山山塊があり、その中央付近には、噴出した安山岩がドーム状を呈する標高約 309mの甲山がそびえる。芦屋断層を挟んで北側には、基盤岩花崗岩からなる六甲山が急峻な斜面を形成しており、六甲山最高点は、931.3mに達する。最高点を挟んで南側に五助橋断層（ごすけばしだんそう）、北側に六甲断層が走る。

1995年1月17日、兵庫県南部地震が発生し、阪神・淡路大震災が引き起こされ、甚大な被害を受けた。（表2-1参照）

表2-1 阪神大震災における西宮市の被災状況

【西宮市の被災状況】	
1. 死者	1,114人（震災関連死を含む）
2. 負傷者	6,386人
3. 家屋倒壊	61,238世帯（全壊 34,136世帯、半壊 27,102世帯）
4. 避難者数	44,351人（最大時1月19日）
5. ライフラインの被害（災害時）	
(1) 水道	154,100世帯で断水
(2) 電気	176,000件で停電
(3) ガス	停止戸数 170,400戸/172,500戸
(4) 電話	故障件数 34,000件/198,000件

2 神戸市

訪問日：2014年10月30日（木）

訪問先：神戸市役所

応対者：危機管理室危機対応担当課長

川中 徹 氏



神戸市役所

(1) 神戸市の概要

神戸市は、2014年12月1日現在、人口1,537,886人、面積553.12km²の、兵庫県南部に位置する県庁所在地であり、また、東灘区、灘区、中央区、兵庫区、北区、長田区、須磨区、垂水区、西区の9つの区からなる政令指定都市である。



神戸市の位置

市内は六甲山系により南北に二分されている。大阪湾に面した南側には神戸の中心地が位置し、ポートアイランド、六甲アイランドといった人工島を有した日本を代表する港町である。一方、北側はベッドタウンとして開発が進んでいるほか、六甲山麓には日本三古湯の有馬温泉が存在している。

この六甲山は、主に花崗岩により形成されており、岩の性質から地表部の風化が進んでいる。これは「真砂土」と呼ばれ、2014年8月に発生した土砂災害により大きな被害をもたらした広島県広島市の阿武山と同じものである。

「神戸ブランド」として、神戸プリンや神戸ビーフ、神戸ワインなどは大変有名である。また、アパレルやケミカルシューズ、真珠加工などのファッション用品の産業が盛んである。六甲山系の摩耶山から望む神戸市や大阪市の夜景は「日本三大夜景」、「1000万ドルの夜景」として親しまれている。



神戸ビーフは世界的にも有名

(2) 阪神・淡路大震災における神戸市の被害状況

阪神淡路大震災は、多くの命を奪っただけでなく、都市基盤や建築物にも甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。(図表2-2参照)

震災の影響により、市内の人口は10万人近く減少したが、その後震災からの復興により2004年11月には震災直前の人口を上回った。

また、港湾機能の麻痺や高速道路の寸断に伴う経済的な被害は、神戸市内のみならず日本全体にまで及んだ。壊滅的な被害を受けた神戸港であるが、1997年3月末にはすべての埠頭・コンテナバースが復旧した。

図表2-2 神戸市の被災状況

①人的被害 (H17.12.22変更)

(人)

	東灘	灘	中央	兵庫	長田	須磨	垂水	西	北	合計
死亡者	1,470	934	243	556	921	399	26	9	13	4,571
ピーク時の 避難所数	120箇所	74箇所	90箇所	96箇所	79箇所	69箇所	41箇所	16箇所	29箇所	599箇所
就寝者数	60,700	35,000	35,172	26,300	35,347	21,067	6,926	1,777	2,348	222,127
避難者数	65,859	40,394	39,090	26,300	55,641	21,728	4,747	1,787	2,360	236,899

※避難所、避難者数はピーク時であるため、各区合計は全市計に一致しない

②物的被害 (全壊・半壊H7.12.22現在 全壊・半壊・部分焼H8.2.1最終)

(棟)

	東灘	灘	中央	兵庫	長田	須磨	垂水	西	北	合計
全壊	13,687	12,757	6,344	9,533	15,521	7,696	1,176	436	271	67,421
半壊	5,538	5,675	6,641	8,109	8,282	5,608	8,890	3,262	3,140	55,145
全焼	327	465	65	940	4,759	407	1	0	1	6,965
半焼	22	2	17	15	13	9	2	0	0	80
部分焼	19	94	22	46	61	20	5	1	2	270
ぼや	2	0	8	52	1	6	1	1	0	71

※全壊：建物の主要構造部（壁・柱・梁・屋根・階段）の損害額が、その建物の時価の50%以上に達した程度のもの

※半壊：建物の主要構造部（壁・柱・梁・屋根・階段）の損害額が、その建物の時価の20%以上50%未満に達した程度のもの

出典：神戸市『阪神・淡路大震災 被災状況及び復興への取り組み状況』

3 淡路市

訪問日：2014年10月31日（金）

訪問先：淡路市役所

応対者：危機管理部次長兼危機管理課長

志智 正廣 氏

危機管理課係長 伊郷 勇一郎 氏

ほか2名



淡路市役所

(1) 淡路市の概要

淡路市は、2005年4月1日に津名郡5町（津名、一宮、北淡、淡路、東浦）が合併してできた、2014年12月1日現在、人口46,429人の都市である。

市域は、淡路島の北部から中部に位置し、東に大阪湾、西に播磨灘を臨み、総面積184.28k㎡を有し、淡路島全体の約3割を占める。

地形は、旧津名・東浦町境の妙見山をはじめとして、地域の中央部を南北に貫く高原地帯が広がっているが、西側はなだらかな斜面となっている。

河川は、山間・丘陵地を源流に、まとまった流域を有する河川が少ないのが特徴で、その分、貯水用のため池が数多く見られる。

地域の特産品としては、たこや鯛、ちりめんなどの海産物のほか、びわ、カーネーション、たまねぎなどの生産が盛んである。



明石海峡大橋

また、伊弉諾神宮をはじめとするパワースポット、五斗長垣内遺跡などの文化遺産も豊富である。



特産の淡路島たまねぎ

澄んだ空気と風光明媚な地形、地域資源にも恵まれる一方で、世界一の吊橋、明石海峡大橋を抱え、本州と四国を結ぶ大動脈・神戸淡路鳴門自動車道が南北を貫通するほか、大阪湾沿いに国道28号、播磨灘沿岸に県道福良江井岩屋線、東西軸として県道富島久留麻線、県道志筑郡家線などが各集落を結ん



淡路市の位置

であり、交通の要所となっている。

こうしたことから、各地から多くの観光客が押し寄せるほか、近年では、企業から注目を浴び、企業誘致活動も活発化している。また、教育施設においても、関西看護医療大学、景観園芸学校など、高中小幼保と多種多様な施設が集まり、田園学園都市としての様相を見せている。

市の施策では、地域資源を生かした新しい地域振興モデル創出への取り組みとして、「あわじ環境未来島特区」の指定を受けており、市内では、メガソーラーや風力発電の整備が進むなどエネルギーの持続に向けた取り組みを活性化させ、「い

つかきっと帰りたくなる街づくり」をコンセプトにまちづくりを進めている。

(2) 阪神・淡路大震災における淡路市の被害状況

1995年1月17日午前5時46分、淡路市を震源地とするマグニチュード7.3の内陸直下型の大地震が発生し、淡路島の北淡町では、震源地の真上に位置していたこともあり、大きな被害を受けた。(表2-3参照)

こうした経験から、淡路市においては、被災から20年が経過した現在においても人口は当時の人数を回復していない状況だが、被災、復興の経験を活かして、各種さまざまな災害対策を行っている。

表2-3 阪神大震災における淡路市(旧北淡町)の被災状況

被害状況
避難者数 3,302人
建物全壊 1,057棟 半壊 1,220棟 一部損壊 1,030棟
死者 39名 重傷者 59名 軽傷者 811名